

ダニエル書2章20-22節 「知恵と力の神」

1A 知恵と知識

1B 主権者なる神

2B 知恵あつての知識

3B 御霊の賜物

4B 平和の実

2A 暗闇を照らす光

1B 心の中

2B 霊の戦い

3B 神の裁き

本文

ダニエル書 2 章を開いてください。私たちの聖書の学びは、ダニエル書にきています。先週は 1 章を読みまし。来週、2 章を一節ずつ、午後礼拝で読んでいきます。今朝と、来週の午前に、2 章から説教を致します。今朝は、2 章 20-22 節に注目します。

20 ダニエルはこう言った。「神の御名はとこしえからとこしえまでほむべきかな。知恵と力は神のもの。21 神は季節と時を変え、王を廃し、王を立て、知者には知恵を、理性のある者には知識を授けられる。22 神は、深くて測り知れないことも、隠されていることもあらし、暗黒にあるものを知り、ご自身に光を宿す。

時は、ネブカデネザル王の治世の第二年です。彼こそが、バビロンを帝国の位にまで引き上げた王であります。その治世の初頭に、これからどのようにしてこの広大な土地を治めるのか、思い巡らしていたことでしょう。その時に、彼は夢をいくつか見ました。あまりにも生々しく、心が騒ぎ、眠れなくなりました。それで、彼は自分の側近である呪法師や呪文師、呪術者を連れてきました。そして彼は、難問を彼らに投げます。「夢と説き明かしを知らせなさい。」夢を聞いて、それを解き明かすのではなく、その夢自体も知らせなさいと言ったのです。それは、彼がこれまでの夢と異なり、必ずこれには意味があり、確かなものであることを、夢も知らせることによって知るためであったと思われます。夢を伝えれば、それこそ適当に、「それは、こうこう、そういう意味です。」とすることができしょう。そこで呪法師や呪文師、呪術者は戸惑いました。夢を知らせてくださいと、しかしネブカデネザルは怒り始めました。そして彼らは、「こんなことを私たちに尋ねる王はいませんでした。肉なる者とその住まいを共にしない神々以外には、それを王の前に示すことのできる者はいません。(2:11 参照)」と言いました。つまり、自分たちの偶像の神々では限界だ、天の神でなければ解き明かすことはできない、と言ったのです。彼らの言ったことは本当です、天の神は、異教

を信じる王の中に、ご自分にしか示すことのできない事柄を夢の中で示しておられたのです。

王は大いに長けり狂いました。そして何と、バビロンの知者を全て殺せ、と命じたのです！これは極端ですが、王は本気でした。偽物であるならば、お前たちは要らない！と怒ったのでしょう。その時に、ダニエルとハナヌヤ、ミシャエル、アザルヤの所にも人が来ました。ダニエルは知恵をもって彼に応待しました。それで彼は王の前に出ることができ、猶予を下さいと願い出たのです。その解き明かしをしますから、ということです。そして、彼らは緊急に祈り会を開きました。夜通し祈りました。天の神が自分たちに啓示が与えられるように祈ったのです。すると、ついに「夜の幻のうちにこの秘密がダニエルに啓示された(2:19)」とあります。それで、彼は神に賛美を捧げました。その賛美の一部が、今、読んだところです。

1A 知恵と知識

ダニエルが賛美したのは、神が「**知恵と力**」を持っておられることをほめたたえています。今朝はこの「知恵」について見ていきたいと思えます。神に知恵が私たちに与えられるということ、隠れたことも明らかにされるような啓示が与えられるということ。そして、この暗き世にも光として生きることができるようになってくださっている、ということです。私たちは、暗中模索という言葉にあるような世界の中で生きようには召されていないこと。確実に、知恵と知識の神が私たちに啓示を与え、希望をもって生きることができるようになってくださいます。

1B 主権者なる神

ダニエルは、知恵だけでなく、力についても神をほめたたえています。それは、その知恵の中に、王が倒れ、王が立つというような、神の主権が啓示されていたからです。とてつもない巨大な帝国が登場しました。これまでエジプトが南にいただけですが、アッシリヤが台頭しました。けれども、アッシリヤをバビロンが倒し、援軍に来たエジプトも敗退しました。これで広大な領域を得たネブカデネザルです。これほどの権力が集中しているのですが、時が来たら彼を倒し、また他のものを立てるのです。どんなに大きな力も、神の前には無に等しく、神は王たちをご自分の望むままに動かしておられるということです。

私たちは、自分がどこにいるのか分からなくなる時があります。あまりにも大きな問題が、状況が立ちだかかっていて、苦しくなるときもあるでしょう。しかし主は、すべてを掌握されています。しかも、知恵をもって掌握されています。初めから終わりまでを見て、思慮深さをもってご計画を立てておられます。「エペソ 1:8-10 神はこの恵みを私たちの上にあふれさせ、あらゆる知恵と思慮深さをもって、みこころの奥義を私たちに知らせてくださいました。それは、神が御子においてあらかじめお立てになったご計画によることであって、時がついに満ちて、この時のためのみこころが実行に移され、天にあるものも地にあるものも、いっさいのものが、キリストにあって一つに集められることなのです。」神が、あらゆる知恵と思慮深さをもって、御子においてご計画を立てておられま

す。そしてついには実行に移され、天にあるもの、地にあるものの一切が、キリストにあって集められます。今、私たちはいろいろな事が、ばらばらに動いているように見えるかもしれませんが、自分のイエス様への信仰と、周りで起こっていることがばらばらになっているように感じるかもしれません。いいえ、全ての人にはキリストの下に一つにされていきます。

2B 知恵あつての知識

そして次に、「**知者には知恵を、理性のある者には知識を授けられる。**」と、ダニエルは言っています。知恵を神が与え、それから知識を与えられます。この順番が大事ですね、知恵を神が知者に与え、そして理性のある者に知識を授けます。知識があれば知恵が与えられるのではなく、まず知恵ありきで、それから知識が与えられます。多くの人が、「知識がなければ、私は知恵がない」と言っています。聖書の知識がなければ、イエス様を信じることはできない。まだ、分からないことがあるから、イエス様の命令に従うことはできないと言います。しかし、知識があっても、知恵がなければ全く意味がありません。知恵というのは、主を恐れることであることが箴言に書かれています。「**主を恐れることは知恵の初め。聖なる方を知ることは悟りである。(9:10)**」ちょうどこれは、子が父親を敬って、その命令に聞き従うようなものです。自分では理解できないことがあります。自分の気持ちや思いでは、そうではないと感じていることがあります。けれども、お父さんがそういうのだから、やっぱりやらないといけないと子どもは思います。その時は全くなんでそんなことをしているのか理解できないのですが、父を信頼しているから、父の命令を敬うのです。それと知恵と知識は同じです。主を信頼して、この方の言われることだからということだけで、従います。すると、聖なる方を知ることができます。この方を知ることができます。こうやって知識を得ます。

神の知恵は、逆説に満ちています。私たちがこうだ、と思っていることは、その反対を言っているかのように見えます。箴言には、「**18:12 人の心の高慢は破滅に先立ち、謙遜は栄誉に先立つ。**」とあります。自分を高めれば低くされ、自分を低くすれば高められます。高くすれば高くなるのではないか、低くしたら低められるだけではないか、と私たちは思うのですが、そうではないのです。そしてイエス様は、神の国における幸いを次のように宣言されました。「**ルカ 6:20-23 貧しい者は幸いです。神の国はあなたがたのものでありますから。いま飢えている者は幸いです。あなたがたは、やがて飽くことができますから。いま泣いている者は幸いです。あなたがたは、いまに笑うようになりますから。人の子のために、人々があなたがたを憎むとき、また、あなたがたを除名し、はずかしめ、あなたがたの名をあしざまにけなすとき、あなたがたは幸いです。その日には、喜びなさい。おどりがあって喜びなさい。天ではあなたがたの報いは大きいからです。彼らの先祖も、預言者たちをそのように扱ったのです。**」まるで、正反対のことを話していますね。しかし、ここに神の知恵があるのです。

そこで使徒パウロは、十字架の言葉は、愚かで、つまずきをもたらすと話しました。「**1コリント 1:18-21 十字架のことばは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の**

力です。それは、こう書いてあるからです。「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さをむなしくする。」知者はどこにいるのですか。学者はどこにいるのですか。この世の議論家はどこにいるのですか。神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか。事実、この世が自分の知恵によって神を知ることがないのは、神の知恵によるのです。それゆえ、神はみこころによって、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救おうと定められたのです。」そして、「キリストは神の力、神の知恵なのです。(24 節)」とあります。神は知恵あるとされている者たちが、その高ぶりで神のところに来ないから、それで彼らを愚かにさせるために十字架による知恵を与えられました。また、力ある時は神のところに来ないから、弱い者、取るに足りない者たちにご自身の救いを与えられました。それによって力ある者を弱くされたのです。ここに知恵があり、力が現れるのです。ですから、キリスト者生活はパラドックスです。弱いように見えて、強い。愚かなように見えて、賢いのです。倒れているように見えて、立っています。キリストが全能の神の御子であるのに、十字架に付けられ、そのへりくだりの中に、復活という全能の力を働かせているからです。

3B 御霊の賜物

神は、信じる者たちに御霊を与えられますが、その御霊の賜物は第一に、知恵と知識の言葉であることが新約聖書に書かれています。まず、主ご自身が知恵と知識の御霊に満たされていました。「イザヤ 11:1-2 エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。その上に、主の霊がとどまる。それは知恵と悟りの霊、はかりごとと能力の霊、主を知る知識と主を恐れる霊である。」主ご自身が知恵と知識の御霊に満たされていたので、信じる者たちにも御霊はこれらの賜物を御心のままに与えられます。「1コリント 12:8 ある人には御霊によって知恵のことばが与えられ、ほかの人には同じ御霊にかなう知識のことばが与えられ」

4B 平和の実

知恵の言葉によって、何が与えられるのでしょうか？ 箴言の著者であるダビデの子、ソロモンは、自分が王となり国を治めなければいけない時に、判断する力、理解する力を主に求めました。すると主が与えてくださいました。そしてソロモンの治世は、平和と繁栄がその特徴となりました。シャロームが平和ですが、ソロモンはそのシャロームという言葉から来ています。彼のところに、訴えが持ち込まれます。全く正反対の証言をしている二人の女が来ました。他の証言できるものは誰もいません。二人の遊女でしたが、一人が自分の赤ん坊を寝かせていたら、その上に乗っかって、殺してしまったというのです。それで、自分の赤ん坊からもう一人が奪い取ったというのです。けれども、相手は否定します、自分の赤ん坊だと言います。それで、ソロモンは、「その赤ん坊を連れて来なさい、私が二つに切り、半分ずつにして分ける。」と言いました。一方が、「それはしないでください、もう一人の女に与えてください。」と言いました。もう一方は、「殺してしまってください」と言いました。それでソロモンは前者の女の赤ん坊であると判断しました。母性本能によって、その証言の真偽を見分けたのです。このように、相対するところに解決を与える言葉です。どちらもが、誰もが受け入れることのできる言葉を与えるのです。これが知恵の言葉です。

私たちの生きている社会、生活にどれほど、平和が必要でしょうか？知恵に満ち、平和であられるキリストがおられます。私たちが聖霊に満たされ、知恵の言葉を語るができるよう、その賜物を求めて行きたいと思います。ヤコブは、いわゆる「知恵」と呼ばれていても、偽りの知恵があることを話し、真実な知恵は平和の実を結ばせることを話しました。「ヤコブ 3:13-18 あなたがたのうちで、知恵のある、賢い人はだれでしょうか。その人は、その知恵にふさわしい柔和な行ないを、良い生き方によって示しなさい。しかし、もしあなたがたの心の中に、苦いねたみと敵対心があるならば、誇ってはいけません。真理に逆らって偽ることになります。そのような知恵は、上から来たものではなく、地に属し、肉に属し、悪霊に属するものです。ねたみや敵対心のあるところには、秩序の乱れや、あらゆる邪悪な行ないがあるからです。しかし、上からの知恵は、第一に純真であり、次に平和、寛容、温順であり、また、あわれみと良い実とに満ち、えこひいきがなく、見せかけのないものです。義の実を結ばせる種は、平和をつくる人によって平和のうちに蒔かれます。」

2A 暗闇を照らす光

そして、ダニエルはこのように神の知恵を示されて、それからこのように神をほめたたえています。「神は、深くて測り知れないことも、隠されていることもあらし、暗黒にあるものを知り、ご自身に光を宿す。」バビロンがこれからどうなっていくのか、その興亡について隠されていること、深くて測り知れないことも、神は表してくださいます。そして、人の暗闇のところ、罪や不法な行ないがあつて暗くされているところがあつても、神が光となつてくださり、そこに宿ってくださいます。

1B 心の中

ダニエルが、2 章また他の章において、国々の興亡、そしてキリストの御国が到来することを預言しますが、そこにおいて暗闇の中の神の光を示していきます。同じように、新約聖書においては、イエス様が、マタイ 13 章において「天の御国の奥義」あるいは「秘密」を弟子たちに教えられました。これまで隠されていたけれども、今、イエス様が明らかにしてくださる、天の国の広がり方があります。一つは、「四種類の土地における種まき」です。道端のような土、岩地、茨の中に蒔かれた種、そして良い土地です。それぞれが、御言葉に対する心の状態を表していました。一つ目は頑なな心、そして試練を受けてつまずく心、そして、思い煩いによって実を結ばない心、そしてみことばをしっかりと聞いて、本当に実を結ぶ人です。三十倍、六十倍、百倍の実を結びます。

ですから、私たちは普段は何でもないような状態に見えます。しかし、天の御国の秘密は、人々がそれぞれどのように語られる福音の言葉に応答していくかによって、明らかにされていきます。

2B 霊の戦い

次に、良い麦と悪い麦の喩えです。今の、良い土地に種が落ちたことで実を結ばせるのですが、その中に敵が入って来て、毒麦の種を蒔くのです。すると、毒麦が出て来ました。僕が主人に、「毒麦を抜き集めましょうか？」と尋ねた所、「まちがって、麦もいっしょに抜き取るかもしれない。

収穫まで両方とも育つままにしておきなさい。」と言います。これは何を意味するのでしょうか？イエス様は、畑とはこの世界のことで、良い種は御国の子供たち、悪い種は悪い者、すなわち悪魔の子供たちということです。そして収穫は世の終わりです。

ですから、天の御国においては霊の戦いがあります。神の働きがある中で、そこに偽物も混ざっているということです。良いものが生えているのに、そこに悪いものも生えているのです。しかも、そこで私たちは早まった判断をしてはいけません。明らかにされるまで待ちなさいとイエス様は言われました。これが、私たちに知恵と忍耐が必要なところ です。偽物があるということは、必ずそこに争いや分裂、ねたみ、敵意などがはびこります。それを取り除かないといけないのですが、自分ではなく主ご自身にしていただかないといけません。しっかりと忍耐します。そして私たちは、実を結ばせている時に、それがどのような実を結ばせているのかをよくよく注意して見る必要があります。表面的に実を結ばせているように見えるものがあるかもしれませんが、いいえ、騙されてはいけません。

3B 神の裁き

そして最後に、今、話したように収穫があります。それは世の終わりのことで、裁きのことです。毒麦は集められて、火で焼かれます。火の燃える炉に入れられます。そして、正しい人たちは、御国で太陽のように輝くとイエス様は言われます。命を持っていない者は持っているものまでが失われ、持っている者はますます豊かに与えられます。

私たちは、このように神のご計画の中に、天の御国の奥義の中に入れられています。その奥義、あるいは秘密を神が明らかにしていかれます。知恵が与えられます。そこには主への恐れがあり、自分では理解できなくても、主に信頼していく部分があります。そしてキリストの十字架にある知恵こそが、まことの知恵であり、神の力です。